

かれんと



時代の流れ
あるいは新しい潮流

No. 57



女性がいきいきと活躍できる 社会を目指し企業が応援！

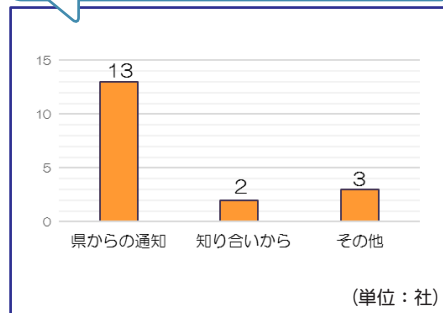
2020年は、私たちの身の回りで大きな変化が起きています。このような状況の中、ますます働く女性にとって大きなサポートとなるのが県の「男女生き生き企業認定制度」。この号では、その第一段階である「とちぎ女性活躍応援団」登録企業の皆様へのアンケート調査を通して、女性の能力・感性を生かした各事業所の取り組みをお聞きしました。

[市内登録事業所 44 うち回答 18 回答率 40%]

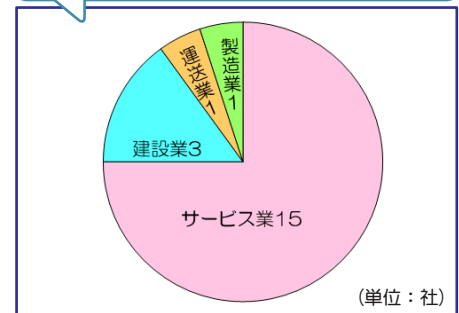
県からの通知で知った
企業がほとんどですね



とちぎ女性活躍応援団を知った
きっかけは何ですか？



業種を伺います

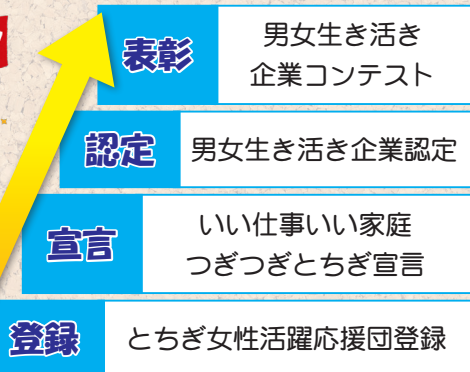


「男女生き生き企業」認定・表彰制度と「女性活躍応援団」

認定・表彰を受けて「男性も女性もいきいきと働ける企業」をアピール！



STEP UP!



栃木県では、女性活躍の推進や働き方の見直しに積極的に取り組み、誰もがいきいきと働けることを目指している企業等を「男女生き生き企業」として認定・表彰する取り組みを実施しています。その第一段階が、「とちぎ女性活躍応援団」への登録です。

※とちぎ女性活躍応援団とは…

官民協働によるオール栃木体制で、働き方改革や女性の活躍を推進するものです。鹿沼市は44事業所(6月8日現在)が登録しています。

◆◆ このマークを見たことがありますか？ ◆◆

厚生労働省では、女性の活躍に関する取り組みが優良な企業への「えるぼし」認定や、次世代育成支援対策推進法に基づいた子育てサポート企業として「くるみん」の認定など、女性が活躍できる職場作りを推進しています。



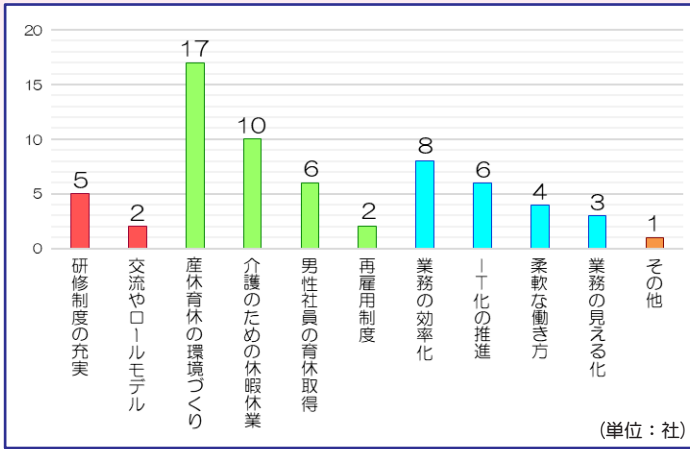
えるぼし
三段階目



フラチナくるみん
子育てサポートしています

女性活躍応援団！各企業の取り組み

どんな取り組みをしていますか？



＜女性の活躍推進＞

- ・女性のための研修制度の充実
- ・女性社員の交流やロールモデル（目標・手本となる人物）の情報発信

＜育児・介護等と仕事の両立支援＞

- ・産休育休を取得しやすい環境づくり
- ・介護のための休暇休業制度
- ・男性社員の育休取得への理解・後押し
- ・育児を理由に退職した社員の再雇用制度

＜多様な働き方への配慮＞

- ・業務の見直しによる効率化
- ・IT化の推進
- ・在宅勤務や短時間勤務など柔軟な働き方の導入
- ・業務の見える化

コロナ禍での学校休業時、学童送迎のための時間の配慮など



会社設立時からテレワークの導入、時間の調整も自由にしています



編集員のつぶやき

「産休・育休を取得しやすい環境づくり」や「介護のための休暇休業制度」については、大半の企業が何らかの取り組みをしている結果となりました。しかし「男性の育休取得」への後押しがまだまだ少ないようにうかがえます。女性の活躍推進の取り組みによって、働く側・会社側にもよりよい環境になっていくのを感じました。

皆様からいただいた声

中小企業にとっては、人的、物的資源に限られるため、世間の流れについていくのは容易ではないですが、可能な範囲で時代の変化に追随できるよう、努力は続けていきたいと思います。

(建設業)

当社だけの問題ではなく、まだまだ日本は「男>女」という構図があり、育休は女性に限れば比較的取得しやすいものの、その他のキャリアアップ等については難しい点はあると思う。日本の社会の中で、少しずつ考えが変わっていけば、男性の育休取得が当たり前になる時代が来るかもしれない。

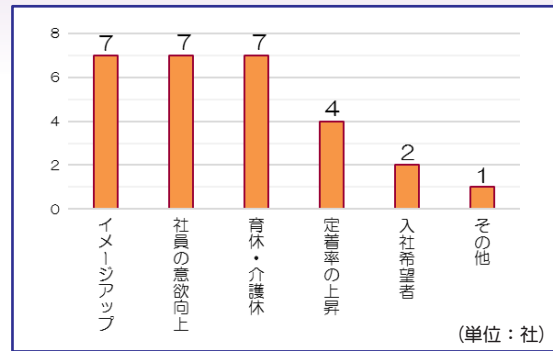
(サービス業)

SDGs（エスディーゼーズ）の取り組みはしていきたいと考えております。まずは、当社で出来る事から取り組み、男女関係なく働きがいのある仕事をし、楽しい職場づくりをしながら会社が成長できたらと思います。

(サービス業)

取り組みによって変わったところはありますか？

- 社のイメージアップにつながった
- 社員の意欲向上
- 育児休業・介護休暇取得の増加
- 社員の定着率の上昇
- 入社希望者の増加
- その他



編集員のつぶやき

女性の活躍推進への取り組みにより、社員の定着率の向上、また育児休業・介護休暇が不安なく取得できる働きやすい職場環境が整い、社員の意欲の向上へとつながる社内風土が醸成され、その結果、企業のイメージアップに貢献されているように思われます。

＼取り組みたいけど…ここが難しい！／

女性の休暇取得は比較的容易だが、男性の育休はまだない。



女性が管理職を積極的に希望しない。



女性社員をもっと増やしたいが、職業柄（建設業）難しい。環境も整っていない。

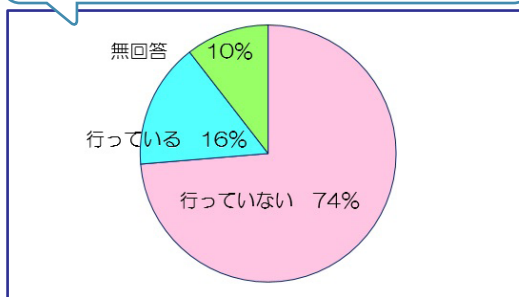


コロナ禍により、在宅勤務を検討したが難しかった。

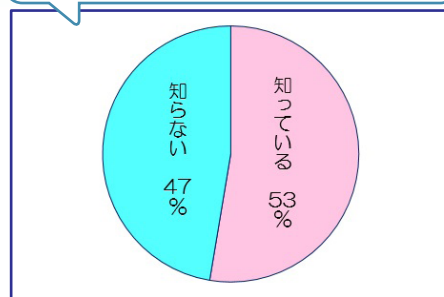


SDGs エスディーゼーズ（持続可能な開発目標）について

SDGsの取り組みを行っていますか？



SDGsを知っていますか？



編集員のつぶやき

SDGsとは「誰一人取り残さない」を合言葉に国際的に進められている取り組みです。17ある目標の1つには「ジェンダーの平等を達成し、全ての女性と女児のエンパワーメント（能力強化）を図る」とありますが、取り組んでいる事業所は16%で簡単には進まないと感じました。他にも環境や人権、教育などの分野でも目標が掲げられています。7月から始まったレジ袋有料化は自然環境を守る第一歩、今後も「かれんと」でSDGsについて取り上げていければと思います。

アンケートを実施して◆◆◆

アンケートにご協力くださいました事業所の皆様ありがとうございました。

業種や事業規模に関係なく、女性の活躍推進の必要性や働き方の改革に取り組む姿勢がうかがえました。

応援団に登録していない企業も働き方改革を進めていると思いますが、女性活躍を掲げることで具体的な問題点が見え、より改革が進むのではないかと感じます。まだまだ課題はありますが、女性活躍への意識を高め少しずつでも具体的に取り組むことが大切だと思います。また、取り組みが進まない部分については、企業努力だけでは解決できないところがあります。男女に関係なく、家事育児介護も協力するのがあたりまえという社会を作ることが必要ではないでしょうか。コロナ禍で働き方や雇用形態が大きく変わるかもしれないこの時期に取り上げることができて大変良かったと感じています。

今後も男女共同参画があたりまえの社会になるよう、紙面を通して発信してまいります。



よろしくお願いたします



この度、かれんと編集員になりました下村久美子です。

鹿沼市に移り住み7年が過ぎ、その間にたくさんの出会いや鹿沼市の魅力などを知ることが出来ました。

そして、かれんと編集員という大役を頂きまして、かれんとを通して男女共同参画について、鹿沼市の皆様に発信し、一緒に考えていけたらと思います。

初めまして、この度新メンバーになりました原とみ子です。

鹿沼市に嫁いで40年になります。次の10年はとても重要になると思っていたところに、コロナ禍が降りか

かって来ました。会いたい人に会えない、自分を守ることが大切な人を守ることになると、外出も控え3密は勿論手洗いマスクと生活様式が一変してしまいました。今回SDGsについて学ぶことが出来ました。私に出来ることは精一杯させていただきますと決意しております。

新編集員 紹介

かれんとイチオシ!

♪「オンラインセミナー」♪

外出自粛中、いかに家の中で充実して過ごすかをテレビやネットなどで沢山取り上げられましたね。私も人と会う機会が減り、「オンライン」を活用することが増えました。色々やってみて楽しんでいるのが、「オンラインセミナー」です。コロナウイルス以前だったら東京に行かなければ受けられない講座が、「交通費なし」「移動時間なし」「感染対策の心配なし」で受けることができます。ウィズコロナは誰も一緒なので、その中でも楽しみを見つけ充実した日々を過ごしていきたいですね。

編集後記

古希を過ぎた私には、つい最近までLGBT(性的少数者)の方は理解し難いものでした。かれんと編集に携わる機会を頂き、実際にトランスジェンダー(体の性に違和感のある人)の方の講演や、人権教育に取り組まれている先生の講義に接し、県内初の「パートナーシップ宣誓制度」を導入した鹿沼市の市民のひとりとして、個々人の人権を尊重し、「偏見」や「差別」のない社会を目指し、ひとりでも多くの方に理解いただけるよう努めていきたいと思ひます。

編集員 高橋和子・太田吉友・原とみ子・下村久美子

鹿沼市ホームページから「かれんと」バックナンバーがご覧いただけます。

トップ>福祉・健康>人権・男女共同参画>男女共同参画>男女共同参画情報紙「かれんと」バックナンバー